

(二〇一五年度)

4 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は19ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、監督から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいねいに消すこと。消しすぎはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
- 九、試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

一
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

唱歌『故郷』には新民謡にみられるような特殊な記号は存在しない。そこで言及される「故郷」は、その指示対象が不在というわけではないからだ。その指示対象はこの国土にほんやりと「遍在」している。すなわち、その指示対象は旧い民謡のように具体的で個別的なかたちでは存在しないとしても、いわば匿名の状態で、抽象的かつ一般的な概念性の次元に存在しているのである。問題は、「故郷」がこのような抽象性・匿名性の次元に成立する形象として人びとの記憶の対象となることにある。

大衆のもっとも私的な記憶あるいは内面的な声の領域に埋めこまれている「故郷」という場所のこの抽象性・匿名性は何を意味しているのか。¹「故郷」とは近代においてそもそも抽象名詞として発生したもののだろうか。ベネディクト・アンダーソンは、「無名戦士の墓」はその中身が具体的に誰のものかもしれないし、あるいは故意に空っぽであるのかもしれないが、じつはその「不在」こそがナショナルな想像力の核を構成するのだと考えた。だとすれば、『故郷』の歌の抽象性・匿名性は、無名戦士の墓と同じようにナショナルな想像力の形態が小さな村々の差異や個性を消し去り、一般化していったことを示しているのだろうか。

しかしながら、この議論は一つの不在、一つの匿名性をそのまま政治的な準拠枠の内部に回収することになる。無名戦士の墓の無名性は決して無限定なものではなく、それにたいして記念行為をする主体の同一性(ナショナルリティ)に拘束されており、厳密には無名ではないのである。他方、『故郷』の歌が指示しているのは、²ある抽象的な社会空間にかんする記憶が生じていることである。この抽象的な空間は国民国家という小さな同一性の枠に閉じこめることはできない。われわれはこの抽象的な空間をそれ自身の実態に即して、つまりその社会性において考えてみなければならぬ。『故郷』の歌が指示する匿名の抽象性を、ある国民国家の内部に設定された匿名の同一性に還元することはできない。新しいテクノロジーやメディアに媒介され、政治的国境を超えて広がりうる社会性の次元にその抽象性・匿名性は出現しているからである。

3 『故郷』の歌はある「抽象的な社会空間」が歴史的に立ち現れたことに呼応している。それは抽象的なイメージの空間の出現とともに生じた、日常的な想像力や知覚の形態をふくむ社会的な「場」の変化を刻印している。そこで記憶が問題になるとすれば、こうした「場」の変化によって出現した「故郷」の記憶と同時に、そのような社会的な「場」の変化そのものの記憶としてである。4 国民国家という想像力の形態も、この抽象的な空間の出現による社会的な「場」の変化のなかで姿を現しえたのである。ここで重要なのは、その想像力の機能を国境や制度という枠のなかに回収して目的論的に説明することではなく、その想像力の土壌がどのような社会性の次元にあるのかを考えることである。5

『故郷』の歌に相関する抽象的な空間は、無名戦士の墓の内部に閉じこめられている空虚とは異なり、具体的に目に見えるかたちで存在している。たとえば鉄道が村々を通過していったとき、島崎藤村は次のようなスケッチを残している。

鉄道が今では中仙道なかせんどうなり、北国街道ほくごくかいどうなりだ。この千曲川ちくまがわの沿岸に及ぼす激烈な影響には、驚かれるものがある。それは静かな農民の生活までも変えつつある。

鉄道は自然界にまで革命を持ちきたした。その一例を言えば、このへんで鉄道草てつどうくさと呼んでいる雑草の種は鉄道の開設とともに侵入しきたったものであるという。野にも、畑にも、今ではあの猛烈な雑草の蔓延まんえんしないところはない。そして土質を荒らしたり、固有の草地を征服したりしつつある。

ここでは鉄道が敷設されることにより、ある普遍的な風景が線路沿いに無意識のうちに展開していく様子が語られている。そこにあるのはさまざまな地域の個性を越えた「鉄道草」の生い茂る風景であり、その地域が鉄路を通じて資本の力とテクノロジーに相関するある普遍的な社会性の「場」につながっているという感覚である。島崎によれば、警察と鉄道に従事する人たちは他郷からの移住者が多いという。これらの人びとは「鉄道草」の風景を国家の同一性のうちに回収する機能をもつが、彼ら

の生活もまたこの風景の力に通過されていく。こうして地域の習俗が構成する古い社会土壤は徐々に変貌し、新しい社会性によつて地域がフォーマットされていくのである。

ここで地域を超えて人間や植物を移動させているテクノロジは、さらに国家を超えたレヴェルでも物や記号や人の移動を促し、ある抽象的な空間を生成していく。たとえば鉄道は時刻表によつて動くが、鉄道が国境を超えてつながっていくとき、普遍的な標準時間のなかにさまざまな国家の時間がふくみこまれる。また人びとの想像力のなかで、ある抽象的な空間のなかに国家の空間が相対化されることになる。鉄道網だけでなく、情報や映像の移動にかんするメディア・テクノロジーや、建築物にみられるような空間設計のテクノロジ、あるいは広告のようなイメージの言説が相互に関連することによつて、国境を横断する、ある抽象的な空間ないし社会性の「場」が立ち現れてくるのである。

国民国家という想像力の形態は、この抽象的な空間の広がりを自己の存立条件としながら、同時にその抽象的な空間をひらく力にたいして、象徴的な記号技術論による制約のシステムを作動させることによつて成り立っている。国民国家という想像力の形態は、一方では資本やテクノロジーがひらく抽象的な空間の想像力から養分を吸い上げながら、他方ではその抽象的な空間のひろがりから自己を差異化し内閉化する象徴的なベクトルをはたらかせているのである。そこにはねじれた関係があり、このねじれは抽象的な空間の広がりについてか耐えきれなくなるときがくる。日本の場合、大陸や南洋への帝国主義的な進出はこのねじれがひどくなつていくプロセスに重なっている。

『故郷』の歌では、かつて『仰げば尊し』が強調した立身出世や社会的成功のような未来への志向よりも、むしろ過去の追憶が主要な焦点になつている。しかし、この過去の追憶が与えるものはあまりに一般的でほとんど無内容な風景でしかない。いつか帰郷するときのことを思いながら、その裏面では、帰り住むことが不可能な場所として諦観のようなかたちで「故郷」が思念されている。実際には生活の拠点はすでに都市に移り、帰郷はもはや一時的・断続的にしか可能ではないのである。「故郷」はここで追憶の対象であるが、それはたんに眼前に不在の形象を追憶しているのではない。それはすでに喪失している何かを追憶しているのであり、その意味で、もはや存在しない何かにたいする記憶が構成されているのである。¹⁰

〔注〕唱歌『故郷』…大正3年に発表された文部省唱歌。「兔追ひし彼の山」で始まる。

新民謡…大正時代以降、愛郷心を育てるために作られた民謡調歌曲

ベネディクト・アンダーソン…アメリカの政治学者

問一 傍線部1はどのような疑問か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 近代人にとって「故郷」とは、私的な記憶に埋めこまれているものでありながらも、すでに思い出すことができないのだろうか。

b 近代人における「故郷」は、私的な記憶に埋めこまれているものであるが、「故郷」の萌芽ほぶがの時点では、具体的な固有名詞として思い描けないのだろうか。

c 近代人とは誰もが「故郷」をすでに失った存在であり、したがって、「故郷」を具体的な固有名詞として思い描くことができないのだろうか。

d ナショナルな想像力の核の不在こそが近代の「故郷」の本質であるが、現代人は「故郷」そのものを失ってしまっているのだろうか。

問二 傍線部②はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 唱歌『故郷』の歌詞は、新メディアの助けを得て、国境を超え、抽象的とはいえ、ある社会空間を思い起こさせるといふこと。

b 唱歌『故郷』の歌詞を奥深くまで解釈するとき、人それぞれかもしれないが、ある特定の自然風景のイメージが湧いてくるといふこと。

c 唱歌『故郷』が作られた大正時代、人々の多くはすでに都市部の住民となっており、各人の故郷を具体的に想像することができなくなっていたといふこと。

d 唱歌『故郷』が出現させるある社会空間にかんする記憶とは、ある国民国家の枠内に限定されて生じているといふこと。

問三 傍線部③はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 『故郷』という歌曲は曖昧さを含む社会的な場の登場に重なるといふこと。

b 『故郷』という歌曲は近代社会の発展に一致して作られたといふこと。

c 『故郷』という歌曲に描かれる社会空間は具体的でないといふこと。

d 『故郷』という歌曲に描かれる社会空間は近代的都市の風景に一致するといふこと。

問四 傍線部4はどのようなものか。その説明として適切でないものを次の中から一つ選べ。

- a 抽象的な広がりを作る力を作動させるために、象徴的な記号の力からの養分を必要とするようなもの。
- b 国境線を超えてしまい、具体性を欠く空間の広がりに基づきながら自らを成り立たせるようなもの。
- c 抽象的な空間として広がりながらも、象徴的な記号の作用によって、その広がりによって一定の制約を課すようなもの。
- d 具体性を欠く空間が姿を見せることで生じた社会の姿の変容の中で、現れるようなもの。

問五 傍線部5はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 国民国家とは政治的国境を画定し、国家の政治経済制度を定めることを何よりも第一の目的にすること。
- b 国民国家という想像力の産物が形成されてきた歴史的背景をつぶさに探求すること。
- c 国民国家という想像力の産物について、それが何のためにあるのか、国の違いや政治体制の違いによって考察すること。
- d 国民国家というものは想像力の産物にすぎないのだが、それが生まれた原因を突きつめる姿勢を放棄すること。

問六 傍線部6はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 新しく鉄道を敷くということは、新しい習慣がもたらされるということであり、きわめて近代的な出来事であるということ。

b 古くからある習俗は廃棄すべきものであり、常に社会は外部から新しい住民を招き入れ、新陳代謝を図るべきだということ。

c 島崎藤村は、鉄道を敷設することによって、日本社会が近代化し、大きく姿を変えてしまうことを嘆いていたということ。

d かつて見られた伝統的な共同体が、外部からやってくる人々の到来によって、社会的な変化を被り、大きく姿を変えてしまうこと。

問七 傍線部7はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 人々がさらに想像力を働かせ、隣国間で時差や風景の違いが明確化される世界がいずれは現実に生まれるということ。

b 人々が想像する抽象的な空間の中で、メディアも空間設計も言説も国境線を超えてしまうような社会が形成されること。

c 人々が想像する抽象的な空間の中で、国境線が融解し、国家のないコスモポリタンな世界が形成され始めること。

d 人々がさらに想像力を働かせ、鉄道網が張り巡らされ、メディアが発展した国境のない世界が空想されること。

問八 傍線部8はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 国民国家は、いずれは帝国主義的な進出を余儀なくされるということ。
- b 国民国家は、空間的広がりをその存立基盤とせざるを得ないということ。
- c 国民国家は、漠然とした場が広がる一方で、自らを他から差異化するということ。
- d 国民国家は、過去の追憶から養分を吸収せざるを得ないということ。

問九 傍線部9「過去の追憶」の説明として適切でないものを次の中から一つ選べ。

- a いつの日にか帰り住むべき「故郷」の記憶。
- b もはや帰郷できない「故郷」の思念。
- c すでに喪失された「故郷」の形象。
- d ほほ意味のない風景だけからなる思い出。

問十 傍線部10はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 記憶の中にあつた「故郷」はもはや永遠に喪失され、想像力を用いてもどこにも見つけることができないうこと。
- b 記憶の中にあつた「故郷」はもはや永遠に喪失されているが、想像力を駆使してとにかく再構築する必要が今はあるということ。
- c 記憶の中にあつた「故郷」はもはや永遠に喪失され、ひたすら想像力を駆使して、再構築されるにすぎないうこと。
- d 記憶の中にあつた「故郷」はもはや存在しないが、立身出世や社会的成功によって取り戻すことができるということ。

問十一 本文の内容に一致しないものを次の中から一つ選べ。

- a 唱歌『故郷』には立身出世の意識は見られない。
- b 唱歌『故郷』の「故郷」は近代人なら誰でも想像できる場である。
- c 唱歌『故郷』の「故郷」には具体的な地名を指示することができない。
- d 唱歌『故郷』の「故郷」は国民国家の枠に閉じ込めることはできない。

二

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

神武天皇より十二代、成務天皇と申し奉るは、限りなくめでたき御世なり。此みかどに男御子、姫宮三十八人の皇子おはしける。三十八人目は、姫宮にてわたらせ給ふ。数も知らぬ程の、皇子たちの御末なればとて、その御名をさざれ石の宮とぞ申しける。御かたち世にすぐれめでたくおほしければ、あまたの御中にもこえて、御寵愛なのめならずいつきかしづき給ひける。さるほどに御年十四にて摂政殿の北の政所に、移し参らせ給ふ。めでたき御おぼえ一天四海の内にも上こす人こそなかりけり。

さざれ石の宮、世間の有為転変のことわりを、つくづくおぼしめしよりて、それ仏道を願ふに、浄土は十方に有りと聞けども、中にもめでたき浄土は、東方淨瑠璃世界にしくはなしとおぼしとりて、常に怠らず、薬師の御名号南無薬師瑠璃光如来と、となへ給ふ。

ある夕暮のことなるに、月の出づる山の端を打ちながめ給ひ、わが生れん浄土はそなたぞとおぼしめし、ひとりたたずみ給ふに、御前に虚空よりこがねの天冠を、額にあてたる官人一人参り、さざれ石の宮に、瑠璃の壺を捧げ申し、「われは薬師如来の御つかはしめ金毘羅大将なり」とぞ申しける。「此壺に妙薬有り。これすなはち不老不死の薬なり。これをきこしめされば、御年もより給はず、わづらはしき御心地もなく、いつもかはらぬ御姿にて、御命の終りもなく、いつまでもめでたく栄え給はん」とて、かき消すやうに失せにける。

さざれ石の宮此壺を受け取らせ給ひ、あらありがたや、年月願ひ奉るしるしかなとて、三度礼し、良薬をなめ給ふに、あまた味はひいふはかりなし。青き壺に白き文字有り。よみて御覧すれば歌なり。

君が代は千代に八千代にさざれ石のいはほとなりて昔のむすまで
とあり。これすなはち薬師如来の御詠歌なるべし。それより御名を引きかへて、いはほの宮とぞ申しける。

其後年月を送り給ふに、聊ものかなしきこともなく、いつもときはの御姿にて栄花にほこり給ふ。御命長くわたらせ給ふ

ことは、すべて八百余歳也。成務天皇・仲哀天皇・神功天皇・応神天皇・仁徳天皇・履中天皇・反正天皇・允恭天皇・安康天皇・雄略天皇・清寧天皇、十一代の間、いつもかはらぬ御姿にて、榮えさせ給ふなり。

さざれ石の宮、あるよもすがら、ともし火をかがげ、薬師真言を念じおはしけるに、かたじけなくも薬師如来、いともたつとき御姿にて、いはほの宮にむかひのたまふは、「なんぢはいつまで此世界にあらん。人間の樂しみは、わづかのこと也。それ淨瑠璃世界の地は、すなはち瑠璃也。なんぢを移さん淨土は、七宝の蓮華の上に、玉の宝殿を立てて、こがねの扉を並べ、玉の簾をかけ、床には錦のしとねを敷き、綾羅莊嚴りょうしょうげんをもつて身を飾りたる数千人の女官、時々刻々に守護を加へ、百味の飲食を捧ぐる事ひまもなし。此世界にて契深き人は、目の前になみろつ、何事も心のままの極樂なれば、さのみはいかで八苦の世界にあらん」とて、いはほの宮を東方淨瑠璃世界に、導き給ふ。

其身をもちかへずして、成仏し給ふこと、希代不思議のためしとかや。上代も末代も、かかるめでたきためしなし。今は末世のこと、か程にこそはおはせずとも、神や仏を念ずる人は、やはか其しるしなかるべき。

(『御伽草子』「さざれいし」)

〈注〉○御つかはしめ―ご使者

問一 傍線部「わたらせ」と同じ意味で用いられる「わたる」の例はどれか。次の中からもっとも適切なもの一つ選べ。

- a この王子悪王にてわたらせ給ふ
- b 今日ほほかにおはしますとて、わたり給はず
- c このいましめ、万事にわたるべし
- d 式部卿の宮、夜忍びてわたらせ給ひつ

問二 傍線部2の現代語訳として、次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 数も理解できないような御子たちの妹であったので、さざれ石の宮と名付けられた。
- b 数え切れない程の御子たちの子孫であったので、さざれ石の宮と名付けられた。
- c たくさんの御子たちの末っ子であったので、さざれ石の宮と名付けられた。
- d 御子たちの中で、数に入らぬほど小さかったので、さざれ石の宮と名付けられた。

問三 傍線部3「いつきかしづき給ひける」とはどういう意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a どこへも行かず、その場所で嫁に行かれた。
- b けがれを除き身を清め、嫁に行かれた。
- c その場に留まり、大事に守りお育てになられた。
- d 大切に世話をし、大事に守りお育てになられた。
- e けがれを除き、身を清め、大事に守りお育てになられた。

問四 傍線部4「移し参らせ給ふ」の理由として、もっとも適切なものはどれか。次の中から一つ選べ。

- a 仏道修行のため
- b 降嫁するため
- c 身を清めるため
- d 手狭になったため

問五 傍線部5の現代語訳として、次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a この世は因縁によってなり、つねに移り変わるものだという道理を、しみじみとお考えあそばされて
- b 物事の移り変わりの激しさは、つねひごろからお気づきになるのが道理であって
- c この世は因果応報の上に成り立つという理屈に、よくよく感じ入りあそばされて
- d 変転の激しい世の中にも変わらぬ道理があることに、心から思い当たられるところがあって

問六 傍線部6「月」とは何か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 歳月
- b 三日月
- c 半月
- d 満月
- e 新月

問七 傍線部7はどういう意味か、もっとも適切なものを一つ選べ。

- a たくさんなめても尽きることはなかった。
- b 何回もなめずにはおられなかった。
- c 言い尽くせない程の味わいであった。
- d はつきりしない味であった。

問八 傍線部8はどういう意味か、次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a ききめは現れようか。
- b 末法の世であつても効験は必ず現れる。
- c 未だ神仏が顕現したためしはない。
- d いくら神仏を念じても無意味である。

問九 薬師如来は浄瑠璃世界をどんな世界であると言っているか、薬師如来の言葉に合致するものをA、合致しないものをBとせよ。

- a 人間世界で縁の深かった人には、浄瑠璃世界でも会うことができる。
- b 浄瑠璃世界では、いつも数千人分のごちそうが用意されている。
- c 浄瑠璃世界では、蓮の花の上に御殿が建っている。
- d 浄瑠璃世界の地面は、黄金に光り輝いている。
- e 浄瑠璃世界では、何事も思い通りの安楽の地である。
- f 浄瑠璃世界に来れば、綾や薄絹で着飾ることができる。
- g 浄瑠璃世界に比べれば、人間世界の楽しみなどが知れている。

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。ただし、設問の関係上、送り仮名を省いたところがある。

知¹好²蔵書、而不知³其所⁴以⁵樂、既⁶知⁷樂、而不知⁸其所⁹以¹⁰敬、則¹¹翫物喪¹²
 志¹³而已¹⁴。雖¹⁵好¹⁶猶¹⁷不¹⁸好¹⁹焉。何²⁰者、書之²¹為²²書也、上²³臨²⁴傍²⁵質、為²⁶師²⁷為²⁸
 友、會²⁹二³⁰千萬人之³¹聖賢³²於³³一室、³⁴盡³⁵二³⁶千萬世之³⁷言行³⁸於³⁹一時⁴⁰矣。蓋⁴¹聞⁴²二⁴³五
 百有余⁴⁴歲、而⁴⁵聖賢⁴⁶出⁴⁷一⁴⁸焉、寔⁴⁹難⁵⁰矣。縱⁵¹其⁵²出、豈能⁵³一室⁵⁴而會⁵⁵二⁵⁶千萬人、
 一時⁵⁷而⁵⁸盡⁵⁹二⁶⁰千萬世⁶¹也耶。是⁶² X 甚⁶³難⁶⁴矣。嗚呼、知⁶⁵其⁶⁶難⁶⁷、則⁶⁸日⁶⁹夜⁷⁰從⁷¹
 事⁷²此⁷³書⁷⁴、而⁷⁵優⁷⁶柔⁷⁷饜⁷⁸飫⁷⁹、怡⁸⁰然⁸¹理⁸²順⁸³、所⁸⁴敬⁸⁵篤⁸⁶、而⁸⁷此⁸⁸心⁸⁹収⁹⁰斂⁹¹也。主⁹²
 無⁹³適⁹⁴也。整⁹⁵靜⁹⁶嚴⁹⁷肅⁹⁸也。常⁹⁹惺¹⁰⁰惺¹⁰¹也。樂¹⁰²在¹⁰³其¹⁰⁴中¹⁰⁵。嗚呼、非¹⁰⁶翫¹⁰⁷物¹⁰⁸、非¹⁰⁹喪¹¹⁰志¹¹¹。
 然¹¹²後¹¹³以¹¹⁴己¹¹⁵所¹¹⁶敬¹¹⁷使¹¹⁸二¹¹⁹人¹²⁰敬¹²¹、人¹²²亦¹²³使¹²⁴後¹²⁵人¹²⁶而¹²⁷復¹²⁸敬¹²⁹後¹³⁰人¹³¹。則¹³²已¹³³雖¹³⁴沒¹³⁵、有¹³⁶
 其¹³⁷不¹³⁸沒¹³⁹者¹⁴⁰存¹⁴¹矣。此¹⁴²書¹⁴³在¹⁴⁴茲¹⁴⁵。豪傑¹⁴⁶之士¹⁴⁷、待¹⁴⁸二¹⁴⁹文¹⁵⁰王¹⁵¹哉。

〔注〕○優柔饜飶—ゆったりと学び、十分に身につける。 ○怡然—よろこぶさま。

一無適—專一に心を傾け他に向かわない。 ○常惺惺—本心が明らかである。 ○收斂—心を一点に落ち着ける。 ○主

れる。

問一 傍線部1「知好蔵書、而不知其所以樂」の意味として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 本を好んで読みはしても、その本当の楽しみ方はわかっていない。
- b 本を所蔵することは好んでも、読書の楽しみはわかっていない。
- c 蔵書の多さを喜び誇りはしても、本を収集する楽しみはわかっていない。
- d 本を所蔵することを愛好するが、どのように所蔵して楽しむかを知らない。

問二 傍線部2「翫物喪志」の意味として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 物を愛玩することに熱中して心を奪われ、本心を失ってしまうこと。
- b 物を愛玩するにはしても、大切な物事の本質を見失ってはならないということ。
- c 愛玩したくなる物には、人の魂を奪ってしまうような魅惑があるということ。
- d 度を越した愛玩は、物それ自体の本質を見失わせるに十分であるということ。

問三 傍線部3「雖好猶不好焉」の意味として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 蔵書を楽しむ心を持たば、なお一層の蔵書の喜びを知るであろう。
- b 蔵書を楽しむことは、あたかも書物を敬することと同じである。
- c 蔵書を愛好しても、真に書物を愛好するとはかぎらない。
- d 蔵書を愛好したとしても、蔵書を愛好しないのと同じである。

問四 傍線部4「縦其出、豈能一室而会千万人」の意味として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a たとえ聖賢が出現したとしても、一度に同じ部屋でたくさんの聖賢と対面することはできない。
- b もし聖賢が出現したとしても、一つの部屋で次々にたくさんの人々と会議することはできるわけではない。
- c 仮に有益な言葉が聖賢の口から発せられても、一つの部屋でたくさんの聖賢の言葉に向き合うことができようか。
- d たとえ多くの有益な言葉を聖賢が説き出して、一つの部屋でたくさんの聖賢と理解し合うことはできるだろうか。

問五 文中の空欄部Xに補充すべき語として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 以
- b 亦
- c 如
- d 故
- e 用

問六 傍線部5「此書在茲」と筆者が記す理由の説明としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 聖賢の教えが説かれた書物は不朽のものであるので、書物としての存在価値がなくなることはないから。
- b 人が初志を失わず書物を読み続ける姿勢を有する以上、その人にとって書物の存在価値が減することはないから。
- c 人が厳粛な気持ちで一心に書物に向き合う姿勢を取る限り、書物の存在意義はなくなることはないから。
- d 後人に読書の楽しみを教えるような書物は、それ自体が厳然とした価値を有しているから。

問七 本文で主張する、あるべき読書の姿勢としてふさわしいものを、次の中から二つ選べ。

- a 疑問点について師匠や友人に問いただしながら書物に向き合う、勤勉な姿勢であること。
- b 心を集中させて書物と向き合い真理を見出そうとする、いささかもいいかげんにしない姿勢をとること。
- c 書物の中にどっぷりとひたり道理に心あそばせようとする、真摯な姿勢であること。
- d 多くの聖賢が説いた叡智を書物で効率よく学び生活に活かそうとする、実践的な姿勢であること。
- e 長い期間を経て培われた知恵を書物から読みとり、後世に伝えようとする、誠実な姿勢であること。
- f 書物を集めることを楽しみ真理を追究することを止めない、研究熱心な姿勢であること。